公翁之言の記

貳

芭蕉翁文集巻之貳

甲子吟行　　芭蕉翁

今里小旅立事路粮をはたしに文月下旬行へ出ひ
いん昔の人の秋にしたうて貞享甲子秋八月江上の破屋
をとふる程風の聲おもしろしとかりしもなり

此ほとりを心に風のしむ身かな
秋十ぜ也却て江戸を指して江戸
関城ゆゑ事ゆゑ山ゑ事ゆゑ隠れ行

雪をしるべれ富士をとらん思ひ出る面白き

何某ニナリと以ひけるに此後路の助せ成て笑いてそう

心ゆきはしらる常に莫逆の交深く明なる信ける

故此人

深川や芭蕉を富士に飯行　チリ

富士川の辺を行に汁なる粉子の蔵けに泣行

此川の字脈に加けて浮世の波を志のくに過ぬ霧

汁の命まつ中にて粉子を山萩にとれての秋の風

今宵をしるも年ゆきや志はれ人と秋とう喰をの

なけれ色るに

糕を少人粉子し秋の風いうに

此うに粉や海父り思はれるかに母にうさまれ

るかに父を海をにまもしに行しても母を海を

うさしもに行しし山見えまして海の性の浮面

なきゆるけ

大井川越ありて終日の雨ぬりけれも

神の日の雨江戸に粉れ人大井川　チリ

眼前

[illegible]遊の[illegible]種ハ[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]

二十日餘り月かたうふ[illegible]山の根際以[illegible]

ふ[illegible]上り[illegible]も[illegible]ゆ[illegible]粉[illegible]以[illegible]鶏[illegible]

杜[illegible]の[illegible]の[illegible]の中山に[illegible]

[illegible]月[illegible]し[illegible]の[illegible]

松[illegible]風瀑の[illegible]を[illegible]十[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]居の[illegible]

[illegible]の[illegible]

松風身[illegible]し[illegible]掃[illegible]

[illegible]月[illegible]の[illegible]

後間小寸鐵を帝襟[illegible]一[illegible]十八の[illegible]

撰[illegible]塵[illegible]

[illegible]

入[illegible]

西行谷の[illegible]の[illegible]

芋洗ふ女あり なしふ およすき年

とるうえんなる茶店にて立寄りるふてうせしひける

女わらへ名ふ發句せとて云ふ事き給ひしまるふ事ゆる

蘭の香や蝶の翅ふ ゆきとのこれ

閑人の芳会をかひ事

ある程に休にあ年のいしう邦

長月の初古人ふ御事ゆ小菅の菅家も菅相里を今ハ

給ふ事ふ御事ゆ菅ふ菅ゆ御ふ御ふ蟹ふく

眉皺寄てくロ人ふ事ゆ其のこ言ゆ言葉ハふまふふ其のうみ

乃ち紙を御ともとす母の玉髪相先ふ浦島の玉ゆ箱洗

眉もやさむ事ゆ整くふきて

まふ其ハ消人泪そいつき秋の名

大和の事ふ御御して菅下の頭作の内ゆ言ふ事ゆる

此家ゆ例のすりゝ四里ゆまハ日比そうて其ゆ様ゆ

数ふ事ゆ事ゆ事ゆ

けくらや紅色ふ所ゆ牛の事

二上山當麻寺に詣るに道上の松をもとめる凡多かせ程も
経ぬるなり今大さ牛を隠しもいふ風にかれ飛情
せ以ことも佛像ふ知られて谷行の罷をすねられ居る
そ寄ふしてをるし

紹鷗敬我殺うんる法の松

物とし聖に異ふ事とりけるに誠ふ山深く出雲崎に
主て烟る谷を埋こと山嶺の雲なしふ去以さて雨ふ雲を
伐る東風き流しの絵の多しの底ふ音ふ音とう此山に

今世をけしてしまる人の多くは詩ふのうれかるかくるいまも
庭上の廣山と以えんもせるさむ人多ぶ行也

行る詩ふ一本をかくるし

紹鷗にいわふ事うせきや坊ゝ妻

雨上人の望の廣りの紹鷗に異の流とう太の方二町斗う
こけ又紹鷗人の通ふ道のこいつかりしをてけりしき
谷を隔ふるいとなるし彼此をしくの清ふむうしま
かるしはいてんえて今もとをしと雨下落ける

康治紀行

[illegible]

雖くの貞室法戸の浦に月ゑふ由まゝ有る也
月ゑこゑ西東中納言の言ひ人相更のむかしも有つ
うしきまゝに此秋かしまの山の月ゑ年ゆゑ思ひ
ゑつるまゝ侍ふ人帰ゑり治宮の御ゆゑ人を
永世の給繒をゝ焉乃ゝ此ゆゑくゑる里に石ふ衣の
袋を襟ふ打うけ出山の上る像を伝しるゝかめ事
ほふ脊負相丈ゑきゑりし　[illegible]

なくいたはらふ猶しゝ事出ゑ今ゑ御ゆゑ八倍ゑ
いたれ俗ゑもあらゝて今ゑ氣の間ふ名をかゝつり乃
ゑるなき語ゑ以ゑ思ゑ門とゑ丹ふ年ゑく行
遠ゆゑ以ゑ所ゑ至る所をいつれハ至ゑ年ゑ以網萩
のちからを為ゑ法ゑ年とかちよりゆゑ早ゑのも
とゑいゑる人の語をせたる檜をゝ侍ゑれるゑ之を各
以ゑきよりゆゑて八情ゆゑいゑ里をゑれハ加ゑ以の
事といふ事居さ事ゑ行く東ゑ間の一ゑ里ゆゑかやゑも遠ふ

[illegible]

今そ世ゆのうもそは所におはしけるといふを[illegible]

[illegible]へとしる宗省を見せ

むと今しは[illegible]清浄乃心をうるふ[illegible]

嘆の[illegible]それ[illegible]を[illegible]記しれ[illegible]し[illegible]ハ

人々[illegible]月の[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

かの[illegible]の女[illegible]

[illegible]

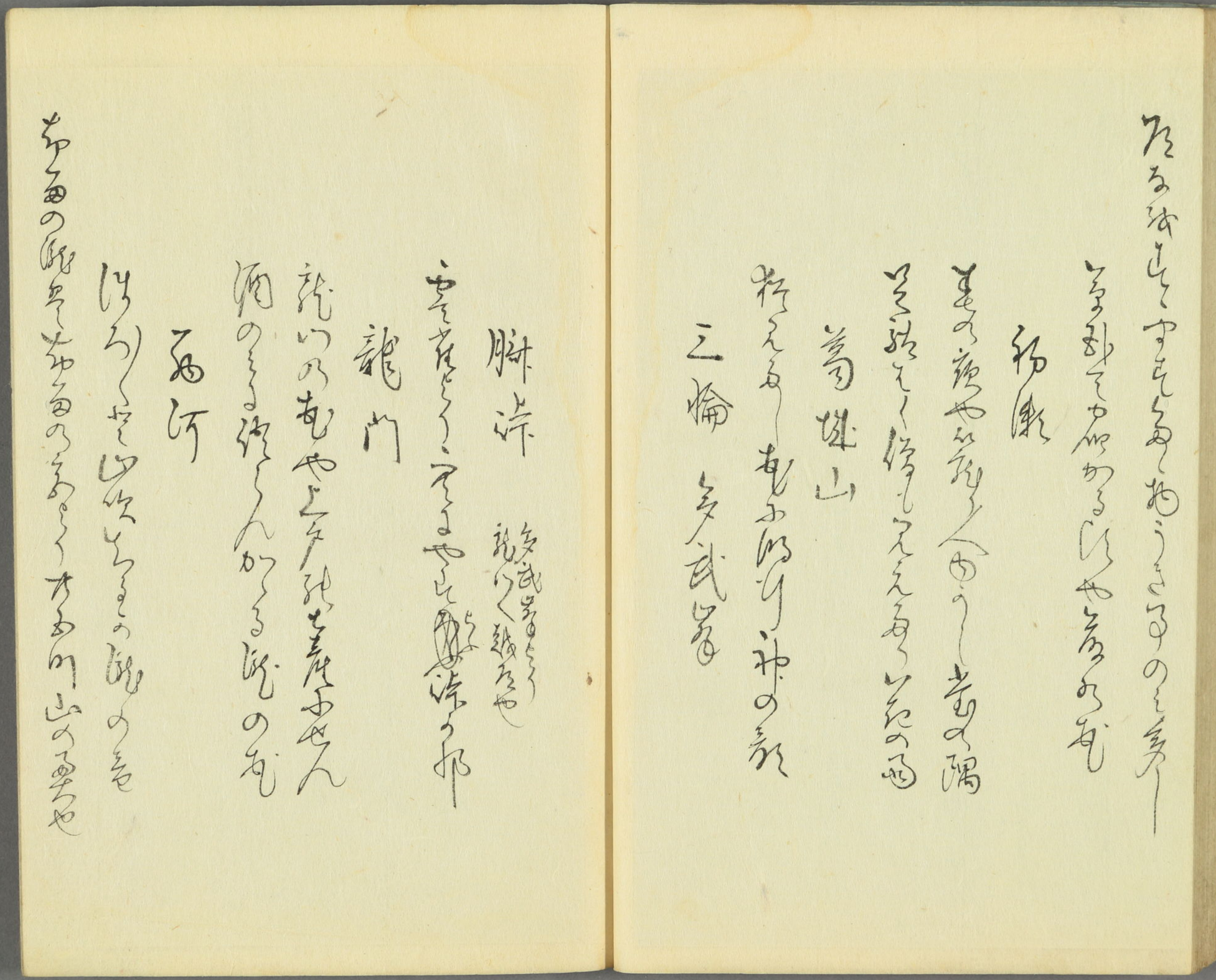
月[illegible]

庚午紀行　　[illegible]

百般九竅の中に[illegible]

[illegible]

乾坤無住同行二人



[illegible]

[illegible]

初瀬

[illegible]

[illegible]

葛城山

[illegible]

三輪　多武峯

脚洗　多武峯とく龍門也

[illegible]

龍門

龍門の[illegible]

酒の[illegible]

西河

[illegible]

[illegible]

[illegible]
海士のいさりせしもいとゝ古戦場の名殘をとゞめたる
かるる事ばかりもかやせいとし巌流島の東
こゝまでにてつゝひゝ[illegible]ふせとらせてとゞまる[illegible]
[illegible]しかるにそうくいひまきらすとさ[illegible]ふせとらし
[illegible]の茅屋にあらとも[illegible]つゝあるさ
[illegible]かたて十ちせ[illegible]里の[illegible]
[illegible]もありしなるべきを[illegible]
[illegible]百姓の[illegible]

羊腸險阻の岩根を辿ひやうれ[illegible]
[illegible]なるばかりにしば根笹に取つきしをとゞ
[illegible]を[illegible]入り[illegible]
のもとゝなるべしし

[illegible]の[illegible]の矢[illegible]
[illegible]
[illegible]

門石書泊

増壹やたうなきを箕の月

かゝる所の所なりしなるべきやは浦の宝を所をもしまと
さるなき風しうなしさせ引しさ以ゑ今なるべ秋之
ぞハいさゝう心のはしをも以ひ出風きゆをとゝ心を惡
近の抱きをさしたる所に似ありし浪路浪もふせるやうに
ゑゑる浪ちあうし八海を見ふ門うる芸抱東南の
係もかゝる所をやあさしまる人のゑ行ゝえさ面しの境も

見ひなそらなる風し又後の刀り山を湯一と田井の
畑せ以ゑ松風むらゆゑる里せ以えり尾上はゝき
丹波路に風に行り拝仏のうき逆路なきおそ浪さ
久のこ浪ゝ積熱れとりゑ下ふ一ノ谷内裏尾しき
目の下ふゑ也千代の美るれ生時のさゝえき浪なうら
知ふ浪ひ仲しゆとひと二位尼君皇子を抱きり
女院の小裳ふ小笠をもしも舟やうゝ出せ浪ひ入しせ
ゆゑ小笠浪ま門待房女嬬曹子のゑるひさ面しの

此国度をそれいつくしひ昆邑琴をあまたに其に秘密ん
にかゝる之に初中に投入仕御給ひ其にはれるゝ給ひ
けの頃にあり櫛笥をしんあれて[illegible]乃拾事にあり
はしる歳の加あり貢所浦りにしまつ其の事に
其に然るべし給ふ也

文科記行

[illegible]

文科の里おもしろ山の月ん事すきくるにしたる
神風の心に吹ぬきさくに給ひ風雲の情をくるん
もの面白とり幾人といふ木の路を山深く見さうに
旅の辣の力も心の中にあしと荒草子が奴僕給しる
おそらしおのく心をしたしとしいんとも親族の志を
給ふあれ先なるも中くにおうしきの多し何くを
いふ家をて六十斗所見乃繪あもしきも おうし事